

かぼちゃ（トンネル早熟栽培） ウリ科：セイヨウカボチャ：中央アンデス高原

栽培暦

月	2			3			4			5			6			7			8			9			10		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
主 な 作 業	<p>○ - △ - ○ ————— ◻</p> <p>播 鉢 定 交 ト 追 収 収 種 上 植 配 ネ 穫 穫 種 げ 植 ネ ル 肥 開 終 除 去 始 り</p>																										

■栽培のポイント

1. かぼちゃは比較的土質は選ばないが、弱酸性が適している。
2. 落果しやすい性質があるので、基肥は控えめにする。
3. 確実に着果させるためには、人工受粉が必要である。

■品種 みやこ、えびす、メルヘン、とっておき、坊っちゃん（平均果重 650 g のミニカボチャ、露地で栽培可能）

■種子量 a 当たり 0.10（1 本仕立）

■育苗

播種 消毒済の種子を、7 cm×1.5 cm 間隔に条播きする。2 cm 程度の覆土をし、十分かん水して新聞紙をかけ、さらにポリをべたがけする。ポリポットに直接播いても良い。

播種後の管理 地温 25～28℃ に保ち一斉に発芽させる。発芽後早めに新聞紙、ポリを除去し、徒長を防ぐため徐々に地温を下げ、乾燥気味に管理する。

発芽適温 25～28℃、発芽後は昼 22～25℃、夜 18℃ を目安に管理する。

鉢上げ 子葉展開時に 10.5 cm ポリポットに鉢上げし、地温 22～25℃ として活着を促す。活着後は徐々に下げて 18～20℃ とする。

苗床管理 本葉 2 枚目が展開したら、管理温度を日中 20～22℃、夜間 10～12℃ として、雌花の早期分化を図る。

かん水 かん水は午前中に行い、夕方まで床土の表面が乾く程度とする。

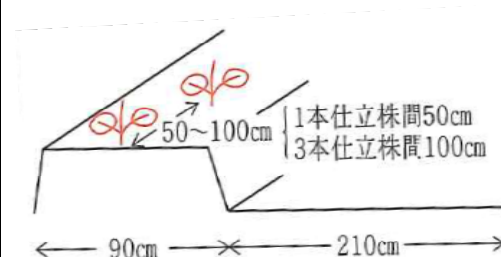
苗の順化 定植する 1 週間前頃から徐々に外気にあて、かん水を控え、がっちりした苗をつくる（育苗日数 40～45 日で本葉 4～5 枚の苗）。

施肥例

(a 当り)

うねつくり

肥料名	基肥	追肥	備考
完熟堆肥	200kg	—kg	成分量
苦土石灰	10	—	窒素 1.6kg
苦土重焼燐	3	—	燐酸 1.9
CDU-S682 (16-8-12)	7	—	加里 1.3
燐硝安加里 S604	—	3	



■定植

定植準備 定植の1週間前には施肥し、できるだけ深耕し、所定のうね幅でベッドを作った後、除草剤を散布し、ポリマルチとトンネルをかけ、地温15℃を確保する。

施肥 a 当り堆肥200kg、苦土石灰10kg、窒素1kg、燐酸2kg、加里0.8kgを基肥の基準とし、地力に応じて加減する。特に草勢が劣る場合には追肥する。

栽植距離 うね幅2.7m、ベッド幅90cm、株間50~100cm。株間は側枝の出にくいみやこなどの品種の場合は狭く、側枝の出やすいえびすなどの品種では広めにとる。

■定植後の管理

トンネル管理 日中30℃(5月中旬以降22~25℃)を目安とし、5月末~6月上旬に除去し、追肥、中耕して敷きわらをする。

整枝 草勢の弱いみやこは、側枝が出にくいので親づる1本仕立て、えびすは側枝が多く出るため、親づる4~5節で摘心し、子づる2~3本仕立とする。余分な側枝は小さいうちに除去しておく。

交配 花粉の活力は気温の上昇とともに低下するため、午前6~8時までに終わるようにする。着果節位は11~15節位とする。

玉直し 収穫1週間前までに行う。

■病害虫防除 モザイク病(キュウリモザイクウイルス・カボチャモザイクウイルス:アブラムシ伝搬)、疫病、うどんこ病に注意する。

■収穫 開花30~35日後、果梗が黄色みを帯び、皮目の入ったものを収穫する。